

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	先端社会研究所
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 現代社会における先端的な課題に学際的な観点から取り組むことを通じて、広く社会に貢献していく。	→社会状況に即応した先端的な研究テーマの設定と大学外の諸機関・組織との協同の実践状況。	B	B	B		
2. 「ミッションステートメント」に適った関西学院大学独自の研究成果を公表する。	→研究成果に対する内部評価/外部評価の実施状況(運営委員会等での内部評価実施/関連研究者への外部評価の依頼)。	C	C	B		
3. 現実社会から提示される課題や要請に対応しつつ、「共生/移動」、「景観/空間」、「セキュリティ/排除」を主たる切り口とした先端的な学術研究成果に裏打ちされた社会貢献を果たしていく。	→外部組織との協同のもとでの研究会、シンポジウム、Sキューブ事業の実施状況(年間2-3回の実施)	B	B	B		
				☆		
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	オランダ国立戦争資料研究所との学術交流を進め、国際ワークショップ“The Power of Healing - or the Healing of Power? A Critical Workshop on the Memory of War”を共同開催した。中国・雲南社会科学院との現地共同調査(中国・雲南省)を実施した。ドイツ日本研究所(東京)との間で、定期研究会への大学院生の派遣を中心とする研究所間交流を展開した。
目標2	毎月定例開催される運営委員会において、研究所の活動計画・実施状況・成果発表に関する評価に併せて検証を行うとともに、3ヶ月に1度の研究推進社会連携機構評議員会への活動報告によって、実施状況の評価の観点からその適切性を検証している。また、次年度の研究所の事業評価に備え、研究成果の検証に努めた。
目標3	研究会は合計12回開催した。プロジェクト研究における成果の中間報告を目的として、シンポジウム「関西私鉄文化を考える」を開催した。双方向的な研究交流の場として、写真展「『赤い家』の真実—戦争被害を語り継ぐ—」、映像上映会「ポスト・ユートピアの映像民族誌—Cuba Sentimental—」、シンポジウム「安曇野景観と安曇野の水を守る」(安曇野市等との共催)、市民参加型エクスカッション「大阪市北区中之島および近鉄関連の郊外住宅地巡検」を実施した。
備考	